

子が間近で見られとても貴重な経験ができました」、「本場のセリ、大きな市場でのたくさんの産物の取引にとっても驚かされました。さすが『天下の台所』」などの声が聞かれました。



▶ 当日対応して頂いた大果大阪青果(株)の植田専務(右)と山本取締役(左)と

自然環境の保全について研修

愛・地球博

次に訪れたのは愛知県で三月二十五日から開催されている二〇〇五年日本国際博覧会(愛・地球博)です。

この万博は、「自然の叡智」をメインテーマに自然の知恵を学び、また自然を尊重し文明と共存することを提案しており、百二十カ国以上の国と地域、多くの国際機関が参加しています。

会場は地球の記憶と未来、伝統のわざと最先端技



術、世界の文化とまつり、その豊かな地球交流を体感する長久手会場と、自然と人、人と人がじつくり触れ合い、語り合う自然環境の保全に最大限の配慮を払いながら、「自然の叡智」というテーマを具現化するシンボルゾーンとしての瀬戸会場の二つからなっています。当日は時折雨が降るあいにくの天気でしたが、日本全国から十五万人を超える来場者がありました。自治会長の皆さんには、時間の許す限り各パビリオンを見学して頂きました。

自治会長研修視察に参加して

自治会会長
連合会会長

中林英清



今年度の自治会長研修は、大阪中央卸売市場、愛・地球博等を視察しました。視察の主目的は、約三百軒ある国営開発農地の有効活用方策を自治会長さんにも考えて頂くためと新町の一体感を醸成するため欠かすことが出来ない自治会長の意思疎通を図るためであったと思っています。卸売市場見学に続き、大果大阪青果(株)の専務さんから輸入産品の動向や国内の消費動向をお聞きしました。その中で、輸入野菜等に対抗でき、しかも、消費者ニーズに対応できる有望産品としては、比較的に持ちがし

ないホーレンソウ、トマト、桃、いちじく、イチゴのうち、特に、消費者の健康志向、需要供給、価格等からトマト、ホーレンソウを推奨されています。今、奥出雲町ではトマトの施設栽培が検討されています。安

自治会長も町の財政には関心を持ち、町民と町との「かけ橋」役を務めなければなりません。今回の研修視察で多くの自治会長さんとの交流を深め、意義ある研修視察であったと思っています。

本町には約三百軒の国営開発農地があり、現在町内三社の建設業者が農業特区を活用し、農業分野に参入するなど地域農業の活性化が図られつつあります。今回の研修視察を活かし、新町での農業振興を町民の皆さんと考え一緒に進めていきたいと思っています。今後町行政に対しまして、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。